



こつちとら、江戸っ子だ!!

（人生の節目③）

先日、七十五歳の誕生日を迎えた。毎年迎える普通の誕生日のほずであった。ところが、一通の手紙がそれを変える。

去年十一月、民間放送健康保険組合から「来年一月八日に七十五歳にな

るので、それ以降は後期高齢者保険制度に移行する」旨の連絡が届く。今までと異なる枠組みの保険制度、しかし本人は若いと思っっているのに「お前は老人、それも後期だ」と一方的に決めつけ

られ、不快である。

青春と いう名の詩

青春とは人生のある期間ではなく、心の持ちかた。理想を失うとき初めて老いを知る。

作山宗久 著

幻の詩人サムエル・ウルマン

ウルマンの「青春という名の詩」を紹介した本

から感謝し

はないかただけで人は老いない。理想を失うとき初めて老

いくように思える。

か」と。慌てて「年を重

い節目をつくるのだ!!

ら江戸っ子だ。末期と言ったわけは

だ間があるが、歳のせい

と自分の右手で頬をたた

生日は去年、娘が帝国ホ

「元談じゃなく、見つかつた。サムエル・ウルマンの青春という名の詩。」

ろがしばらくして風邪を

かと思う。「いや待てよ」

く唱える。

「青春とは人生のある期間ではなく、心の持ちかたを言う。：年を重ね

引く。後期高齢者にはま

も、俳句も後期高齢者の

理想を失うとき初めて老

す。少しほこりを被つて

た好機幸齢者として、老

他人との比較ではなく自

ねただけで人は老いない。

か対策をたてねばと考

けるべきなのだ。

ふと、この「巡礼の道」

理想を失うとき初めて老

道中、国がその気なら何

後期高齢者ではなく、

仲間入りを機に止めよう

いる」と何度も呪文の如

紳士はお礼を言つてゆつ

幸せに生きる機会を持つ

と自分の右手で頬をたた

生日は去年、娘が帝国ホ

あない。なんで俺を一方

自分で自分の人生の節目

に、今年も帝国ホテルに

行こう。自分で良い、太

的に爺と決めつけるの

きるべきなのだ。

と、今年も帝国ホテルに

行こう。自分で良い、太

だ」と言いたかつたが、

自分で自分の人生の節目

に、今年も帝国ホテルに

行こう。自分で良い、太

はな、ケチケチと金の

を生活してないだろうか。

と、今年も帝国ホテルに

行こう。自分で良い、太

た企業負担分がなくな

離れても、その節目だけ

と、今年も帝国ホテルに

行こう。自分で良い、太

笑つて「どう変わるの

男性の多くは、長く組

と、今年も帝国ホテルに

行こう。自分で良い、太

か」と聞いてみた。

目を自分の人生の節目と

と、今年も帝国ホテルに

行こう。自分で良い、太

るとても言うのかい」と

を唱える。

と、今年も帝国ホテルに

行こう。自分で良い、太



帝国ホテルのロビーは去年も今年も真紅の1,000本のバラで飾られていた（写真は昨年のも）